簿記２級 重要仕訳 TOP100・B ランク **第１回**

問	論点	難度	WEB 解説	チェック欄	自由記入欄
1	有価証券の評価替え（満期保有目的債券）	高・**中**・低	4－8	✓✓✓✓✓	
2	税効果会計（損金算入）	高・中・**低**	7－7	✓✓✓✓✓	
3	固定資産の廃棄	高・**中**・低	5－12	✓✓✓✓✓	
4	新株発行（増資時）	高・中・**低**	8－2	✓✓✓✓✓	
5	無形固定資産（特許権の償却）	高・中・**低**	5－22	✓✓✓✓✓	

簿記２級 重要仕訳 TOP100・B ランク **第２回**

問	論点	難度	WEB 解説	チェック欄	自由記入欄
1	固定資産の減価償却（改定償却率）	高・**中**・低	5－17	✓✓✓✓✓	
2	電子記録債権（譲渡）	高・中・**低**	2－5	✓✓✓✓✓	
3	利益処分（資本剰余金）	高・中・**低**	8－7	✓✓✓✓✓	
4	有価証券の購入（関連会社株式）	高・**中**・低	4－2	✓✓✓✓✓	
5	法人税等（追徴・還付）	高・中・**低**	7－3	✓✓✓✓✓	

簿記２級 重要仕訳 TOP100・B ランク **第３回**

問	論点	難度	WEB 解説	チェック欄	自由記入欄
1	有価証券の購入（子会社株式）	高・中・**低**	4－3	✓✓✓✓✓	
2	手形の更改（利息の処理②）	高・中・**低**	2－11	✓✓✓✓✓	
3	株式申込証拠金（申込期日の処理）	高・中・**低**	8－3	✓✓✓✓✓	
4	本支店会計（本店集中計算制度）	高・中・**低**	9－2	✓✓✓✓✓	
5	固定資産の滅失（未決算の計上②）	**高**・中・低	5－14	✓✓✓✓✓	

簿記２級 重要仕訳 TOP100・B ランク **第４回**

問	論点	難度	WEB 解説	チェック欄	自由記入欄
1	仕入取引（引取運賃）	高・**中**・低	1－3	✓✓✓✓✓	
2	有価証券の売却（その他有価証券）	高・**中**・低	4－5	✓✓✓✓✓	
3	固定資産の取得（国庫補助金）	高・中・**低**	5－3	✓✓✓✓✓	
4	オペレーティング・リース取引（決算処理）	高・中・**低**	6－6	✓✓✓✓✓	
5	債務の保証	高・**中**・低	2－12	✓✓✓✓✓	

簿記２級 重要仕訳 TOP100・B ランク **第５回**

問	論点	難度	WEB 解説	チェック欄	自由記入欄
1	電子記録債権（割引）	高・中・**低**	2－6	✓✓✓✓✓	
2	課税所得の計算（益金不算入）	高・**中**・低	7－5	✓✓✓✓✓	
3	有価証券の売却（平均原価法）	高・中・**低**	4－7	✓✓✓✓✓	
4	固定資産の減価償却（月割償却②）	高・**中**・低	5－19	✓✓✓✓✓	
5	銀行勘定調整表（未渡小切手）	高・中・**低**	10－3	✓✓✓✓✓	

簿記２級 重要仕訳 TOP100・B ランク **第６回**

問	論点	難度	WEB 解説	チェック欄	自由記入欄
1	役務収益・役務原価（収益・費用の計上②）	高・中・**低**	2－3	✓✓✓✓✓	
2	固定資産の売却（直接法）	高・**中**・低	5－8	✓✓✓✓✓	
3	外貨建取引（決算処理）	高・中・**低**	3－4	✓✓✓✓✓	
4	仕入取引（検収基準）	高・中・**低**	1－4	✓✓✓✓✓	
5	株主資本の計数変動	高・中・**低**	8－10	✓✓✓✓✓	

簿記２級 重要仕訳 TOP100・B ランク **第７回**

問	論点	難度	WEB 解説	チェック欄	自由記入欄
1	仕入取引（割戻）	高・中・**低**	1－5	✓✓✓✓✓	
2	不渡手形（貸倒れ）	高・**中**・低	2－9	✓✓✓✓✓	
3	ファイナンス・リース取引（契約時の処理②）	高・中・**低**	6－2	✓✓✓✓✓	
4	無形固定資産（ソフトウェアの除却）	高・**中**・低	5－21	✓✓✓✓✓	
5	欠損てん補	高・中・**低**	8－9	✓✓✓✓✓	

簿記２級 重要仕訳 TOP100・B ランク **第８回**

問	論点	難度	WEB 解説	チェック欄	自由記入欄
1	貸倒引当金の設定	高・**中**・低	2－4	✓✓✓✓✓	
2	固定資産の取得（不動産取得税）	高・中・**低**	5－6	✓✓✓✓✓	
3	賞与引当金	高・中・**低**	10－4	✓✓✓✓✓	
4	有価証券の評価替え（その他有価証券）	**高**・中・低	4－9	✓✓✓✓✓	
5	仕入取引（割引）	高・中・**低**	1－6	✓✓✓✓✓	

簿記２級 重要仕訳 TOP100・B ランク **第９回**

問	論点	難度	WEB 解説	チェック欄	自由記入欄
1	固定資産の取得（割戻）	高・中・**低**	5－5	✓✓✓✓✓	
2	売掛金の譲渡	高・中・**低**	2－7	✓✓✓✓✓	
3	売上取引（引渡基準）	高・中・**低**	1－10	✓✓✓✓✓	
4	一年基準	高・**中**・低	10－5	✓✓✓✓✓	
5	ファイナンス・リース取引（決算処理②）	高・**中**・低	6－4	✓✓✓✓✓	

簿記２級 重要仕訳 TOP100・B ランク **第 10 回**

問	論点	難度	WEB 解説	チェック欄	自由記入欄
1	材料の消費	高・中・**低**	11－3	✓✓✓✓✓	
2	棚卸減耗費の計上	高・中・**低**	11－4	✓✓✓✓✓	
3	労務費の計算（本社工場会計）	高・中・**低**	11－6	✓✓✓✓✓	
4	賃率差異の計上	高・中・**低**	11－7	✓✓✓✓✓	
5	製造間接費配賦差異の計上	高・中・**低**	11－10	✓✓✓✓✓	

簿記２級 重要仕訳 TOP100・B ランク 第１回 問題

下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、各取引の下の勘定科目から最も適当と思われるものを選び、記号で解答すること。

1. ×1 年 10 月 1 日において、満期まで保有する目的で吉本フルーツ株式会社の社債（額面総額：￥ 1,000,000、償還期間：5 年）を額面 ￥ 100 につき ￥ 102 で発行と同時に購入し、代金は小切手を振り出して支払った（※適切に処理済み）。
当期末（×2 年 3 月 31 日）の決算において、償却原価法（定額法）を適用して帳簿価額の評価替えを行う。なお、社債の決算日の時価は額面 ￥ 100 につき ￥ 101 である。

ア．当座預金　イ．有価証券　ウ．投資有価証券　エ．関係会社株式　オ．有価証券利息
カ．支払利息

2. 損金に算入することが認められなかった前期の備品の減価償却費 ￥ 40,000 について、この備品を当期首に売却したことにより当期の損金に算入することが認められた。決算において、法人税等の実効税率を 40%として税効果会計の処理を行う。

ア．仮払法人税等　イ．備品　ウ．備品減価償却累計額　エ．繰延税金資産　オ．未払法人税等
カ．繰延税金負債　キ．減価償却費　ク．法人税等調整額

3. ×3 年 4 月 1 日に購入した製造用機械（耐用年数：5 年、残存価額：ゼロ、償却方法：定額法、記帳方法：間接法、当期首時点の帳簿価額：￥ 180,000）を×6 年 11 月 22 日に廃棄した。なお、当社の決算は 3 月 31 日（年 1 回）であり、減価償却は月割計算で行っている。

ア．未収入金　イ．貯蔵品　ウ．機械装置　エ．機械装置減価償却累計額　オ．減価償却費
カ．固定資産除却損　キ．固定資産廃棄損

4. 株式 500 株を 1 株あたり ￥ 10,000 で発行し、払込金の全額が当座預金口座に振り込まれた。また、株主を募集するために現金で支払った広告宣伝費 ￥ 220,000 は、当期の費用として処理することにした。

ア．現金　イ．当座預金　ウ．資本金　エ．資本準備金　オ．利益準備金　カ．創立費
キ．株式交付費　ク．広告宣伝費

5. 決算において、前期首に取得した特許権（当期首の帳簿価額：￥ 560,000）を定額法により償却した。なお、当社は特許権を耐用年数 8 年で毎期均等償却している。

ア．のれん　イ．特許権　ウ．商標権　エ．減価償却累計額　オ．のれん償却　カ．特許権償却

簿記２級 重要仕訳 TOP100・B ランク 第２回 問題

下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、各取引の下の勘定科目から最も適当と思われるものを選び、記号で解答すること。

1. 当期末（×5 年 3 月 31 日）において、×1 年 4 月 1 日に購入した備品（購入代価 ￥ 900,000、付随費用：￥ 100,000、耐用年数：5 年、残存価額：ゼロ、償却方法：200%定率法、保証率：0.10800、改定償却率：0.500、記帳方法：間接法）の減価償却を行った。なお、当社の決算日は 3 月末日（会計期間は 1 年）である。

ア．備品　イ．備品減価償却累計額　ウ．固定資産売却益　エ．減価償却費　オ．支払手数料
カ．固定資産除却損　キ．固定資産売却損

2. 所有する電子記録債権のうち ￥ 200,000 を原田商店に売却し、譲渡記録を行った。なお、売却代金 ￥ 190,000 は以前に当社が振り出した小切手を受け取った。

ア．現金　イ．当座預金　ウ．受取手形　エ．売掛金　オ．電子記録債権　カ．電子記録債務
キ．電子記録債権売却損

3. 定時株主総会において、剰余金の配当および処分が以下のとおり承認された。

・その他資本剰余金 ￥ 800,000 を財源として配当を行う。
・上記の配当に関連して、会社法が定める金額を準備金として積み立てる。
・繰越利益剰余金 ￥ 500,000 を別途積立金に振り替える。

なお、株主総会時点の同社の資本金は ￥ 20,000,000、資本準備金は ￥ 2,900,000、利益準備金は ￥ 2,000,000 であった。

ア．未払配当金　イ．資本金　ウ．資本準備金　エ．その他資本剰余金　オ．利益準備金
カ．繰越利益剰余金　キ．別途積立金　ク．受取配当金

4. 当期首において、長期保有目的で平山ダイニング株式会社の株式 ￥ 200,000（発行済株式の 5%）を購入していたが、本日、影響力を行使する目的で発行済株式の 25%を追加購入した。なお、25%分の購入代金 ￥ 1,100,000 は普通預金から支払った。

ア．普通預金　イ．売買目的有価証券　ウ．満期保有目的債券　エ．その他有価証券
オ．関連会社株式　カ．子会社株式

5. 過年度分の法人税について追徴の指摘を受けたため、要納付額 ￥ 550,000 を普通預金から支払った。

ア．当座預金　イ．普通預金　ウ．未収還付法人税等　エ．法人税等　オ．追徴法人税等
カ．法人税等調整額　キ．損益

簿記２級 重要仕訳 TOP100・B ランク 第３回 問題

下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、各取引の下の勘定科目から最も適当と思われるものを選び、記号で解答すること。

1. 支配権を獲得する目的で筒井サイエンス株式会社の株式 ￥ 2,500,000（発行済株式の 60%）を購入し、代金は手数料 ￥ 10,000 とともに小切手を振り出して支払った。

ア．当座預金　イ．売買目的有価証券　ウ．満期保有目的債券　エ．その他有価証券
オ．関係会社株式　カ．有価証券利息　キ．支払手数料　ク．支払利息

2. 備品を購入したさいに綿矢商店に振り出した約束手形 ￥ 500,000 について、資金繰りの悪化を理由に手形の更改を申し出たところ、綿矢商店の同意を得ることができたため旧手形と新手形を交換した。なお、支払期日の延長にともなう利息 ￥ 5,000 は新手形に含めることにした。

ア．受取手形　イ．営業外受取手形　ウ．支払手形　エ．営業外支払手形　オ．未払利息
カ．受取利息　キ．支払利息

3. 新たに 100 株（1 株あたりの払込金額は ￥ 50,000）を発行して増資を行うことになり、払い込まれた 110 株分の申込証拠金を別段預金に預け入れた。なお、当社では申込証拠金を資本金に充当するさいには、会社法が規定する最低額を組み入れることにしている。

ア．別段預金　イ．立替金　ウ．預り金　エ．資本金　オ．新株式申込証拠金
カ．資本準備金　キ．利益準備金　ク．繰越利益剰余金

4. 谷崎ナオミズム株式会社の横浜支店は、宇都宮支店から「横浜支店の広告宣伝費 ￥ 88,000 を現金で立て替え払いした」との報告を受けたので適切に処理した。なお、同社は本店集中計算制度を採用している。

ア．現金　イ．立替金　ウ．未払金　エ．広告宣伝費　オ．本店　カ．横浜支店
キ．宇都宮支店

5. ×2 年 1 月 31 日、建物（取得原価：￥ 9,000,000、前期末の減価償却累計額：￥ 1,650,000）が火災で焼失した。この建物には火災保険 ￥ 7,000,000 が掛けられていたので、当期の減価償却費を月割りで計上するとともに、ただちに保険会社に保険金の支払いを請求した。
　なお、建物の減価償却は定額法（耐用年数：30 年、残存価額：ゼロ、記帳方法：間接法）により行っており、決算日は 3 月 31 日（会計期間は 1 年）である。

ア．未収入金　イ．建物　ウ．建物減価償却累計額　エ．保険差益　オ．減価償却費
カ．保険料　キ．火災損失　ク．未決算

簿記２級 重要仕訳 TOP100・B ランク 第４回 問題

下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、各取引の下の勘定科目から最も適当と思われるものを選び、記号で解答すること。

1. 運送業者から前月分の運賃の請求書が送られてきたので、小切手を振り出して支払った。請求書の内訳は、商品の購入に関する引取運賃が ￥ 24,000、商品の販売に関する配送費用（当社負担）が ￥ 36,000 であった。

ア．当座預金　イ．立替金　ウ．買掛金　エ．預り金　オ．仕入　カ．発送費

2. 前期中に ＠￥ 800 で購入し、前期末決算で ＠￥ 700 に評価替え（全部純資産直入法による洗替方式を適用）していたその他有価証券 1,000 株を諸事情により ＠￥ 750 で売却し、代金は 3 営業日後に受け取ることにした。なお、再振替仕訳（評価差額の振戻仕訳）は期首において適切に行われている。

ア．未収入金　イ．売買目的有価証券　ウ．満期保有目的債券　エ．その他有価証券
オ．投資有価証券売却益　カ．投資有価証券売却損　キ．その他有価証券評価差額金

3. 当期首において、備品の取得を助成するために国から交付された補助金 ￥ 300,000 を受け取り、普通預金とした。

ア．普通預金　イ．備品　ウ．前受金　エ．仮受金　オ．預り金　カ．国庫補助金受贈益
キ．固定資産圧縮損

4. ×1 年 7 月 1 日、以下の条件でリース会社と備品のリース契約を締結した。なお、このリース取引はオペレーティング・リース取引である。

リース期間：4 年
リース料：年額 ￥ 60,000（支払日は毎年 6 月末日、現金後払い）
リース資産：見積現金購入価額 ￥ 200,000
耐用年数：5 年
決算日：3 月 31 日（会計期間は 1 年）

決算（×2 年 3 月 31 日）において、当期の経過期間に対応する支払リース料を月割りで未払計上した。

ア．現金　イ．リース資産　ウ．減価償却累計額　エ．リース債務　オ．未払リース料
カ．支払リース料　キ．減価償却費　ク．支払利息

5. 債務を保証していた取引先が期日までに借入金 ￥ 3,000,000 を返済することができず、債権者から利息 ￥ 150,000 を含めた全額の返済を求められたため、小切手を振り出して支払った。なお、当社では他社の債務を保証するさいに対照勘定を用いて備忘記録をしている。

ア．当座預金　イ．立替金　ウ．前払利息　エ．借入金　オ．支払利息　カ．保証債務
キ．保証債務見返

簿記２級 重要仕訳 TOP100・B ランク 第５回 問題

下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、各取引の下の勘定科目から最も適当と思われるものを選び、記号で解答すること。

1. 所有する電子記録債権のうち ￥ 600,000 を割り引き、割引料（3.5%相当額）が差し引かれた残額を普通預金とした。

ア．普通預金　イ．受取手形　ウ．電子記録債権　エ．電子記録債務　オ．支払手数料
カ．支払利息　キ．手形売却損　ク．電子記録債権売却損

2. 決算において、税引前当期純利益 ￥ 2,000,000 を計上したが、受取配当金の益金不算入額 ￥ 200,000 があることが判明した。当期の法人税等の法定実効税率を 40%として、未払法人税等を計上する。なお、中間申告のさいに計上した仮払法人税等の残高は ￥ 300,000 である。

ア．仮払法人税等　イ．未収還付法人税等　ウ．未払法人税等　エ．受取配当金　オ．法人税等
カ．追徴法人税等　キ．法人税等調整額　ク．損益

3. 売買目的で保有している夢枕サービス株式会社の株式 1,000 株のうち 600 株を 1 株あたり ＠￥ 840 で売却し、代金は買主が振り出した約束手形を受け取った。なお、夢枕サービス株式会社の株式は当期中に 3 回に分けて購入したもので、＠￥ 800 で購入した 100 株、＠￥ 850 で購入した 400 株、＠￥ 900 で購入した 500 株で構成されており、移動平均法による記帳を行なっている。

ア．受取手形　イ．営業外受取手形　ウ．売買目的有価証券　エ．満期保有目的債券
オ．未収入金　カ．有価証券利息　キ．有価証券売却益　ク．有価証券売却損

4. 機械の減価償却費は概算額（1 か月あたり ￥ 11,000）をもって、4 月から 2 月までの 11 か月間にわたって毎月見積り計上しているため、決算において年間確定額との差額を調整する。

取得原価：￥ 1,200,000
残存価額：ゼロ
耐用年数：10 年
償却方法：定額法
記帳方法：間接法
決算日：3 月 31 日（会計期間は 1 年）

ア．未収入金　イ．機械　ウ．機械減価償却累計額　エ．未払金　オ．固定資産売却益
カ．減価償却費　キ．固定資産売却損

5. 消耗品費の支払いのために作成した小切手 ￥ 33,000 と、掛代金の支払いのために作成した小切手 ￥ 165,000 が、決算日現在、未渡しであることが判明した。

ア．当座預金　イ．普通預金　ウ．売掛金　エ．未収入金　オ．買掛金　カ．未払金
キ．消耗品費

簿記２級 重要仕訳 TOP100・B ランク 第６回 問題

下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、各取引の下の勘定科目から最も適当と思われるものを選び、記号で解答すること。

1. 旅行業を営む沢木トラベル株式会社は、1 泊 3 日の SFC 修行弾丸ツアーを企画したところ、顧客 20 名からの申し込みがあり、ツアー代金の合計 ￥ 2,000,000 を現金で受け取っていた（※適切に処理済み）。
本日、予定どおり弾丸ツアーを催行し、添乗員への報酬や宿泊代、交通費などの諸経費 ￥ 1,600,000 を現金で支払った。

ア．現金　イ．前受金　ウ．仮受金　エ．未払金　オ．役務収益　カ．役務原価　キ．給料
ク．旅費交通費

2. ×1 年 1 月 30 日に購入した備品（取得原価 ￥ 2,000,000、耐用年数：5 年、残存価額：ゼロ、償却方法：定額法、記帳方法：直接法）を、×3 年 6 月 30 日に ￥ 850,000 で売却し、代金は翌月 10 日に受け取ることにした。なお、当社の決算日は 3 月末日（会計期間は 1 年）であり、購入・売却した年度の減価償却費は月割りで計算すること。

ア．営業外受取手形　イ．未収入金　ウ．備品　エ．備品減価償却累計額　オ．固定資産売却益
カ．減価償却費　キ．固定資産売却損

3. 先日、米国の取引先から 5,000 ドルを借り入れ、同日の直物為替相場で記帳処理していた。本日、決算において円換算額の評価替えを行った。

借入時の直物為替相場：1 ドル ￥ 112
借入時の先物為替相場：1 ドル ￥ 114
決算時の直物為替相場：1 ドル ￥ 113
決算時の先物為替相場：1 ドル ￥ 115

ア．貸付金　イ．借入金　ウ．受取利息　エ．支払利息　オ．為替差損益

4. 先日、伊坂商店にかねて注文しておいた商品 ￥ 198,000 を受け取り、代金は掛けとした。本日、この商品を検収したところ ￥ 22,000 の商品が品違いであったため返品した。なお、当社では仕入の計上基準として検収基準を採用している。

ア．売掛金　イ．未収入金　ウ．買掛金　エ．未払金　オ．売上　カ．仕入

5. 株主総会の決議により、その他資本剰余金 ￥ 500,000 および繰越利益剰余金 ￥ 300,000 を減少して各準備金に組み入れた。

ア．資本金　イ．資本準備金　ウ．その他資本剰余金　エ．利益準備金　オ．繰越利益剰余金
カ．別途積立金　キ．修繕積立金

簿記２級 重要仕訳 TOP100・B ランク 第７回 問題

下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、各取引の下の勘定科目から最も適当と思われるものを選び、記号で解答すること。

1. 先月と今月の恩田商店からの仕入総額が ￥ 1,200,000 に達し、恩田商店の割戻条件（直近２か月間の売上総額が ￥ 1,000,000 を超える顧客に対し、売上総額の 0.5%相当額の支払いを免除する）を満たした旨の連絡を受けたため、本日、同店に対する買掛金を減額した。

ア．売掛金　イ．買掛金　ウ．売上　エ．仕入割引　オ．仕入　カ．損益

2. 得意先奥田商店に対して前期に償還請求をしていた不渡手形の額面 ￥ 500,000 と償還請求費用 ￥ 50,000 のうち、￥ 300,000 を他人振出小切手で回収したが、残額については回収の見込みがないため貸倒れ処理をした。なお、貸倒引当金の残高は ￥ 150,000 である。

ア．現金　イ．当座預金　ウ．受取手形　エ．不渡手形　オ．売掛金　カ．貸倒引当金
キ．支払手数料　ク．貸倒損失

3. 当期首（4 月 1 日）において、下記の条件でリース会社と備品のリース契約を締結した。このリース取引はファイナンス・リース取引に該当するため、利子抜き法により処理することにしたが、本日（4 月 10 日）、誤って利子込み法で処理していたことが判明したため、契約時の仕訳の訂正を行うことにした。なお、リース契約した備品はリース資産勘定で処理している。

リース期間：4 年
リース料：年額 ￥ 80,000（毎年 3 月末日払い）
リース資産：見積現金購入価額 ￥ 300,000

ア．現金　イ．リース資産　ウ．減価償却累計額　エ．リース債務　オ．受取利息
カ．減価償却費　キ．支払リース料　ク．支払利息

4. 不要となったソフトウェアを除却した。なお、当期の償却額は月割りで計上すること。

取得日：×1 年 8 月 1 日
除却日：×5 年 5 月 31 日
購入代価：￥ 1,440,000
付随費用：￥ 60,000
利用可能期間：5 年
償却方法：定額法
決算日：3 月 31 日（会計期間は 1 年）

ア．貯蔵品　イ．ソフトウェア　ウ．ソフトウェア仮勘定　エ．ソフトウェア償却
オ．支払手数料　カ．ソフトウェア除却損

5. 繰越利益剰余金のマイナスを補てんするために、その他資本剰余金 ￥ 600,000 を取り崩すことを株主総会で決定した。なお、繰越利益剰余金の借方残高は ￥ 800,000 である。

ア．資本金　イ．資本準備金　ウ．その他資本剰余金　エ．利益準備金　オ．繰越利益剰余金

簿記２級 重要仕訳 TOP100・B ランク 第８回 問題

下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、各取引の下の勘定科目から最も適当と思われるものを選び、記号で解答すること。

1. 売掛金の期末残高 ￥ 500,000 のうち ￥ 100,000 は経営状態が悪化している川上商店に対するものである。売上債権については過去の貸倒実績率 1%にもとづいて貸倒引当金を設定しているが、川上商店に対する売掛金については回収不能額を 50%と見積もって貸倒引当金を設定することにした。なお、貸倒引当金の期末残高は ￥ 12,000 である。

ア．不渡手形　イ．売掛金　ウ．貸倒引当金　エ．貸倒引当金繰入　オ．貸倒損失
カ．貸倒引当金戻入　キ．償却債権取立益

2. 土地の購入にあたって発生した不動産取得税 ￥ 360,000 の納税通知書が届いたため、現金で納付した。なお、当社では不動産取得税を不動産の付随費用として、取得原価に含めて処理している。

ア．現金　イ．仮払法人税等　ウ．土地　エ．未払法人税等　オ．支払手数料　カ．租税公課
キ．法定福利費　ク．法人税等

3. 従業員への賞与の支払いにあたり、賞与総額 ￥ 3,000,000 から、所得税の源泉徴収分 ￥ 550,000 を差し引き、手取額を当座預金口座から従業員の普通預金口座へ振り替えて支給した。なお、前期末に賞与引当金 ￥ 2,500,000 を計上している。

ア．当座預金　イ．普通預金　ウ．立替金　エ．預り金　オ．賞与引当金　カ．賞与
キ．給料　ク．法定福利費

4. 当期首（×1 年 4 月 1 日）において、長期保有目的で林ルンルン株式会社の社債（額面総額：￥ 1,000,000、償還期間：5 年）を額面 ￥ 100 につき ￥ 97 で発行と同時に購入し、代金は小切手を振り出して支払った（※適切に処理済み）。
当期末（×2 年 3 月 31 日）の決算において、償却原価法（定額法）を適用して帳簿価額の評価替えを行うとともに、決算日の時価が額面 ￥ 100 につき ￥ 98 であることが判明したため適切に処理する。

ア．当座預金　イ．売買目的有価証券　ウ．満期保有目的債券　エ．その他有価証券
オ．有価証券利息　カ．有価証券評価益　キ．有価証券評価損　ク．その他有価証券評価差額金

5. ×1 年 8 月 3 日に、仕入先上橋商店に対する買掛金を小切手を振り出して支払った。なお、この買掛金は×1 年 8 月 1 日に仕入れた商品 ￥ 200,000 にかかるもので、「仕入日より 1 週間以内に支払う場合は、代金の 3%分の支払いを免除する」という条件が付いていた。

ア．当座預金　イ．売掛金　ウ．買掛金　エ．未払金　オ．仕入割引　カ．仕入　キ．損益

簿記２級 重要仕訳 TOP100・B ランク 第９回 問題

下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、各取引の下の勘定科目から最も適当と思われるものを選び、記号で解答すること。

1. 営業用車両 10 台（1 台あたり ￥ 1,000,000）を購入し、割戻額 ￥ 300,000 を控除した残額を普通預金から支払った。なお、運送費用 ￥ 100,000 は現金で支払った。

ア．現金　イ．普通預金　ウ．車両運搬具　エ．受取手数料　オ．固定資産受贈益
カ．仕入　キ．支払運賃　ク．固定資産圧縮損

2. 湊商店に対する売掛金 ￥ 420,000 を湊商店の承諾を得て貴志商店に譲渡し、貴志商店振り出しの小切手 ￥ 400,000 を受け取った。

ア．現金　イ．当座預金　ウ．受取手形　エ．売掛金　オ．手形売却損　カ．債権売却損

3. 先日、得意先朝井商店に商品 ￥ 240,000 を販売し、代金は掛けとした。本日、得意先より商品が到着した旨の連絡を受けた。なお、当社では売上の計上基準として引渡基準を採用している。

ア．売掛金　イ．未収入金　ウ．買掛金　エ．未払金　オ．売上　カ．仕入

4. 当期首において、向こう 4 年分の保険料（1 年あたり ￥ 30,000）を前払いし、全額を保険料勘定に計上していた。決算にあたり、一年基準を適用して保険料を適切な勘定に振り替える。

ア．立替金　イ．前払費用　ウ．未収収益　エ．長期前払費用　オ．預り金　カ．未払費用
キ．前受収益　ク．保険料

5. ×1 年 10 月 1 日に、下記の条件でリース会社と備品のリース契約を締結した。このリース取引はファイナンス・リース取引に該当するため、利子抜き法により処理することにした（※適切に処理済み）。

リース期間：4 年
リース料：年額 ￥ 200,000（毎年 9 月末日払い）
リース資産：見積現金購入価額 ￥ 720,000
決算日：3 月 31 日（会計期間は 1 年）

当期末（×2 年 3 月 31 日）の決算において、リース料に含まれている利息のうち、当期の経過期間にかかる分を定額法の月割計算により未払計上するとともに、備品（耐用年数：リース期間、残存価額：ゼロ、償却方法：定額法、記帳方法：間接法）の減価償却費を月割りで計上した。

ア．備品　イ．リース資産　ウ．リース資産減価償却累計額　エ．リース債務　オ．未払利息
カ．支払リース料　キ．減価償却費　ク．支払利息

簿記２級 重要仕訳 TOP100・B ランク 第 10 回 問題

下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、各取引の下の勘定科目から最も適当と思われるものを選び、記号で解答すること。

1. 当工場では、購入した原料を外注業者に無償支給し、加工の一部を依頼している。当月、製造指図書#1001 のために原料 100,000 円を出庫し、外注業者にメッキ加工を依頼した。なお、通常の出庫票により出庫記録を行った。

ア．材料　イ．賃金・給料　ウ．仕掛品　エ．製造間接費　オ．製品　カ．売上原価
キ．現金

2. 材料の月末帳簿棚卸高は 100,000 円（@1,000 円×100kg）であったが、月末に材料の実地棚卸を行ったところ、月末実地在庫量は 95kg であることが判明した。材料の棚卸減耗は正常な数量である。棚卸減耗に関する仕訳を示しなさい。なお、経費に関する諸勘定を用いない方法によること。

ア．材料　イ．賃金　ウ．仕掛品　エ．製造間接費　オ．製品　カ．売上原価　キ．現金

3. 工場での賃金の消費額を計上した。当月の作業記録によると直接工の直接作業時間は 800 時間であった。当工場で適用する予定総平均賃率は 2,500 円である。また、間接工については、前月賃金未払高が 180,000 円、当月賃金支払高が 600,000 円、当月賃金未払高が 200,000 円であった。なお、当工場では工場会計を独立させており、工場元帳には以下の勘定科目が設定されている。工場において行われる仕訳を示しなさい。

ア．材料　イ．賃金・給料　ウ．仕掛品　エ．製造間接費　オ．製品　カ．売上原価
キ．本社

4. 直接工の賃率差異を計上した。前月未払高は 280,000 円、当月支払高は 700,000 円、当月未払高は 250,000 円、当月の直接工の直接作業時間は 300 時間、間接作業時間は 100 時間であった。なお、直接工の消費賃金の計算には 1 時間あたり 1,600 円の予定消費賃率を用いている。

ア．製品　イ．賃金　ウ．仕掛品　エ．製造間接費　オ．製品　カ．売上原価
キ．材料消費価格差異　ク．賃率差異

5. 当月の製造間接費予定配賦額は 960,000 円、実際発生額は 950,000 円であったため、配賦差異を原価差異勘定に振り替えた。

ア．材料　イ．賃金・給料　ウ．仕掛品　エ．製造間接費　オ．製品　カ．売上原価
キ．原価差異

簿記２級 重要仕訳 TOP100・B ランク **第１回** 解答

問	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	**オ**（有価証券利息）	2,000	**ウ**（投資有価証券）	2,000
2	**ク**（法人税等調整額）	16,000	**エ**（繰延税金資産）	16,000
3	**オ**（減価償却費） **エ**（機械装置減価償却累計額） **キ**（固定資産廃棄損）	60,000 270,000 120,000	**ウ**（機械装置）	450,000
4	**イ**（当座預金） **キ**（株式交付費）	5,000,000 220,000	**ウ**（資本金） **ア**（現金）	5,000,000 220,000
5	**カ**（特許権償却）	80,000	**イ**（特許権）	80,000

簿記２級 重要仕訳 TOP100・B ランク **第２回** 解答

問	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	**エ**（減価償却費）	108,000	**イ**（備品減価償却累計額）	108,000
2	**イ**（当座預金） **キ**（電子記録債権売却損）	190,000 10,000	**オ**（電子記録債権）	200,000
3	**エ**（その他資本剰余金） **カ**（繰越利益剰余金）	880,000 500,000	**ア**（未払配当金） **ウ**（資本準備金） **キ**（別途積立金）	800,000 80,000 500,000
4	**オ**（関連会社株式）	1,300,000	**エ**（その他有価証券） **ア**（普通預金）	200,000 1,100,000
5	**オ**（追徴法人税等）	550,000	**イ**（普通預金）	550,000

簿記２級 重要仕訳 TOP100・B ランク **第３回** 解答

問	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	**オ**（関係会社株式）	2,510,000	**ア**（当座預金）	2,510,000
2	**エ**（営業外支払手形） **キ**（支払利息）	500,000 5,000	**エ**（営業外支払手形）	505,000
3	**ア**（別段預金）	5,500,000	**オ**（新株式申込証拠金）	5,500,000
4	**エ**（広告宣伝費）	88,000	**オ**（本店）	88,000
5	**オ**（減価償却費） **ウ**（建物減価償却累計額） **ク**（未決算） **キ**（火災損失）	250,000 1,650,000 7,000,000 100,000	**イ**（建物）	9,000,000

簿記２級 重要仕訳 TOP100・B ランク **第４回** 解答

問	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	**オ**（仕入） **カ**（発送費）	24,000 36,000	**ア**（当座預金）	60,000
2	**ア**（未収入金） **カ**（投資有価証券売却損）	750,000 50,000	**エ**（その他有価証券）	800,000
3	**ア**（普通預金）	300,000	**カ**（国庫補助金受贈益）	300,000
4	**カ**（支払リース料）	45,000	**オ**（未払リース料）	45,000
5	**イ**（立替金） **カ**（保証債務）	3,150,000 3,000,000	**ア**（当座預金） **キ**（保証債務見返）	3,150,000 3,000,000

簿記２級 重要仕訳 TOP100・B ランク **第５回** 解答

問	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	**ア**（普通預金）	579,000	**ウ**（電子記録債権）	600,000
	ク（電子記録債権売却損）	21,000		
2	**オ**（法人税等）	720,000	**ア**（仮払法人税等）	300,000
			ウ（未払法人税等）	420,000
3	**イ**（営業外受取手形）	504,000	**ウ**（売買目的有価証券）	522,000
	ク（有価証券売却損）	18,000		
4	**ウ**（機械減価償却累計額）	1,000	**カ**（減価償却費）	1,000
5	**ア**（当座預金）	198,000	**カ**（未払金）	33,000
			オ（買掛金）	165,000

簿記２級 重要仕訳 TOP100・B ランク **第６回** 解答

問	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	**イ**（前受金）	2,000,000	**オ**（役務収益）	2,000,000
	カ（役務原価）	1,600,000	**ア**（現金）	1,600,000
2	**カ**（減価償却費）	100,000	**ウ**（備品）	1,100,000
	イ（未収入金）	850,000		
	キ（固定資産売却損）	150,000		
3	**オ**（為替差損益）	5,000	**イ**（借入金）	5,000
4	**カ**（仕入）	176,000	**ウ**（買掛金）	176,000
5	**ウ**（その他資本剰余金）	500,000	**イ**（資本準備金）	500,000
	オ（繰越利益剰余金）	300,000	**エ**（利益準備金）	300,000

簿記２級 重要仕訳 TOP100・B ランク **第７回** 解答

問	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	**イ**（買掛金）	6,000	**オ**（仕入）	6,000
2	**ア**（現金）	300,000	**エ**（不渡手形）	550,000
	カ（貸倒引当金）	150,000		
	ク（貸倒損失）	100,000		
3	**エ**（リース債務）	20,000	**イ**（リース資産）	20,000
4	**エ**（ソフトウェア償却）	50,000	**イ**（ソフトウェア）	400,000
	カ（ソフトウェア除却損）	350,000		
5	**ウ**（その他資本剰余金）	600,000	**オ**（繰越利益剰余金）	600,000

簿記２級 重要仕訳 TOP100・B ランク **第８回** 解答

問	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	**エ**（貸倒引当金繰入）	42,000	**ウ**（貸倒引当金）	42,000
2	**ウ**（土地）	360,000	**ア**（現金）	360,000
3	**オ**（賞与引当金）	2,500,000	**エ**（預り金）	550,000
	カ（賞与）	500,000	**ア**（当座預金）	2,450,000
4	**エ**（その他有価証券）	10,000	**オ**（有価証券利息）	6,000
			ク（その他有価証券評価差額金）	4,000
5	**ウ**（買掛金）	200,000	**ア**（当座預金）	194,000
			オ（仕入割引）	6,000

簿記２級 重要仕訳 TOP100・B ランク **第９回** 解答

問	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	**ウ**（車両運搬具）	9,800,000	**イ**（普通預金）	9,700,000
			ア（現金）	100,000
2	**ア**（現金）	400,000	**エ**（売掛金）	420,000
	カ（債権売却損）	20,000		
3	**ア**（売掛金）	240,000	**オ**（売上）	240,000
4	**イ**（前払費用）	30,000	**ク**（保険料）	90,000
	エ（長期前払費用）	60,000		
5	**ク**（支払利息）	10,000	**オ**（未払利息）	10,000
	キ（減価償却費）	90,000	**ウ**（リース資産減価償却累計額）	90,000

簿記２級 重要仕訳 TOP100・B ランク **第 10 回** 解答

問	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	**ウ**（仕掛品）	100,000	**ア**（材料）	100,000
2	**エ**（製造間接費）	5,000	**ア**（材料）	5,000
3	**ウ**（仕掛品）	2,000,000	**イ**（賃金・給料）	2,620,000
	エ（製造間接費）	620,000		
4	**ク**（賃率差異）	30,000	**イ**（賃金）	30,000
5	**エ**（製造間接費）	10,000	**キ**（原価差異）	10,000

※重要仕訳 TOP100 の PDF は、本試験を想定してランダムに組み合わせて出題しています。論点ごとにまとめた WEB 上の解説とは順番が異なりますので、解説をご確認いただく場合は、以下の「PDF 用の解説一覧ページ」をご利用ください。

URL：https://boki-navi.com/2qr2021/

QR コード：